

足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	認知症に伴う精神症状の背景を明らかにする後ろ向き研究
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	徘徊や異食や脱抑制といった認知症の精神症状は、介護者にとって最も困る症状のうちのひとつですが、その原因や背景はあまり研究されていません。本研究の目的はそれらの精神症状の背景を調べることです。得られたデータによって、患者様本人や介護者に提供できるケアや環境づくりのベースを検討していきます。
調査データ該当期間	1998年1月から2020年6月まで診療情報を調査対象とする
研究の方法	<p>★対象となる患者様</p> <p>1998年1月から2020年6月に当院神経精神科病棟および当院認知症疾患センター内の神経精神科物忘れ外来（旧メモリークリニック）に入院/通院した認知症を患っていた患者様の中で、以下に挙げる特異な精神症状を呈した患者様です。当研究で挙げる特異な精神症状とは、徘徊、食行動の異常（異食、拒食、窒息）、脱抑制（特定の物の収集、他人の家への押し入り、診察室からの立ち去る「立ち去り行動」）、鏡現象（鏡に映った自分と話す）です。</p> <p>★利用する情報</p> <p>それぞれの症状に対して、認知症の下位分類（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などの疾患分類）、認知症の重症度（Clinical Rating Scale）、認知機能（改訂版長谷川式簡易知能評価スケールと Mini-Mental State Examination）、意味記憶障害（病棟や外来での日常物品の使用状況や人物の認知が可能かどうかの状況）、視空間障害（病棟入院中に自分の部屋に戻るかどうか、自宅にひとりで帰れるかどうかといった状況）、画像所見（頭部MRI, CT, SPECT）を利用して、症状との関連性を調べます。</p>
情報の他の研究機関への提供	なし

個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文化を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。
本研究の資金、利益相反	ありません
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆